

オオオオオオ

特異点バビロニア



長い触手は
いとも簡単に
最奥にある
子宮に到達し……

ラフムの軍勢に
敗れた私たちは、
彼からかの激しい
凌辱を受けていました

吐き出される
精子の量は
常人の数十倍にも
及ぶのです

精子はとても獐猛で
犯して
その魔力奪い……

そしてさらなる魔力を
求めて母体の卵巣を
目指して来るのです

無抵抗な卵巣は
機能を失うまで犯され

ポロポロにされた
卵巣は、子宮と共に
彼らの新たな孕み袋に
作り変えられて
しまうのです

オオオオオオ



生き残った
バビロニアの
女性たちはもちろん

「サーヴァント」で
あろうと
瞬く間に孕まされて…

先輩も…
イシユタルさんも…
皆…ラフムに
孕まされて
しまいました

次に射精されたら
私の子宮口は…もう…

その魔力も…
残り僅か…

シールドとしての耐性と
残された魔力を使い
子宮口を堅めて
受精を拒んで
いたのですが…

唯一孕んでない私は…
吐き出され続ける
膈内への射精に
今も耐え続けています

子宮が精液…
受け入れてしまいます

「もう…魔力が…
なくて…っ！」

「子宮の入り口…っ！」

「開いちゃう…っ！！」

「これ以上…っ
精液…っ
防げません…からっ！！」

「だから…っ！」

「もう…突かないで！」

「お願い…っ！」

「出るなら…っ！」





アッ
ドッ
ドッ

アッ

アッ

ドッ
ドッ
ドッ

「あ…」

「あああ……」

子宮の中に……
直接……!!



クッ
クッ

あ...
犯されてる...
子宮も卵子も...

全部...



子宮の中に...
直接...

あ...
ああ...
ああ...

あれから数日…

受精したラフムは
胎内で瞬く間に成長し…

私はすでに数十を
超えるラフムを
出産しています

その間
数えきれないほど
絶頂させられ

私の意識はゆっくりと
快楽の闇に落ちて
いきました…

